新型コロナウイルス感染症が招いた「新たな生活様式」と保育実践

その１

コロナ禍のヒトの育ち

京都大学大学院 教育学研究科 教授
公益社団法人 全国私立保育園連盟 理事

明和 政子

いま，人類未曾有の事態が起こっている

✓ 新型コロナウイルス感染症専門家会議（2020年5月4日）

新型コロナウイルスを想定した**「新しい生活様式」**を身につけましょう

- 他者と身体的距離をとる
- ３密を避ける
- 会話は真正面を避ける
- マスク着用…

「新しい生活様式」の実践例

（1）一人ひとりの基本的感染対策

感染防止の３つの基本：①身体的距離の確保、②マスクの着用、③手洗い

□人との間隔は、できるだけ2m（最低1m）空ける。
□会話をする際は、可能な限り真正面を避ける。
□外出時や屋内でも会話をするとき、人との間隔が十分とれない場合は、症状がなくてもマスクを着用する。ただし、夏場は、熱中症に十分注意する。

✓ 「他者と身体的距離をとりながら生きる」環境
人類がこれまで経験したことのない未曾有の事態

✓ **身体接触を基本活動とする保育現場**の混乱と不安

保育・子育てと「新しい生活様式」の実践は両立するのか？

他者との身体接触なしには生存できないヒト

✓ ヒトは，**他者との「密・接触」を基本とする社会的環境**のなかで生存，進化してきた生物

✓ 生物としてのヒトの育ちの**大前提**

（１）ヒトを含む哺乳類動物は，他者（養育者）との<u>身体接触なしには生存できない</u>

（２）<u>乳幼児期の脳の発達</u>には，他者との身体接触という経験が不可欠

（３）乳幼児期の環境経験は，<u>その後の脳と心の発達に直接的に影響</u>する

「新しい生活様式」によっていっそう加速する コミュニケーション様式の変化

- ✓ 新型コロナウイルスの問題が収束しても，**他者と身体的距離をとったコミュニケーション様式への移行は加速し続ける**

- ✓ 完成した脳をもつ大人にとって
「必要だから」から
「便利だから」という流れへ

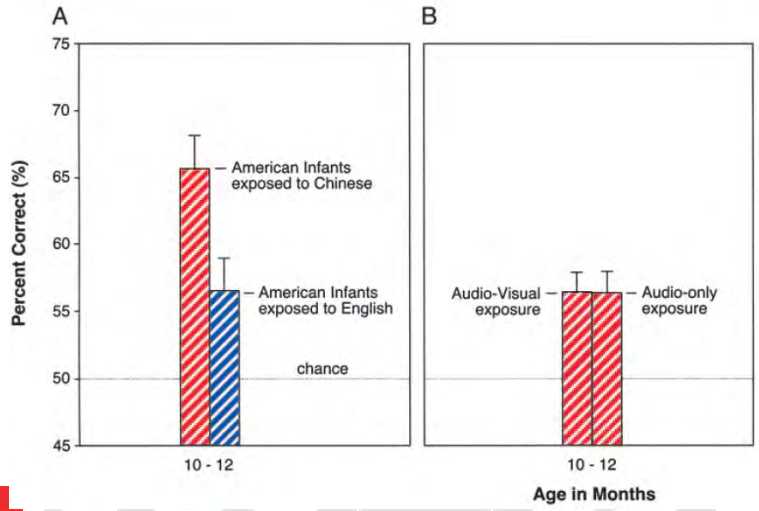
- ✓ しかし，**「発達途上の脳」をもつ子どもにとって…**

仮想空間での他者との経験は，現実空間でのそれと大きく異なる

・**現実空間**：視聴覚の情報が，他者との身体接触によって生じる**「心地よい感覚」**（セロトニンやドーパミン，オキシトシンなどの神経伝達物質）と統合された脳内処理

・**仮想空間：視聴覚の情報に偏った脳内処理**

視聴覚経験を与えるだけでは学習効果は見込めない



PNAS

COLLOQUIUM PAPER

Two are better than one: Infant language learning from video improves in the presence of peers

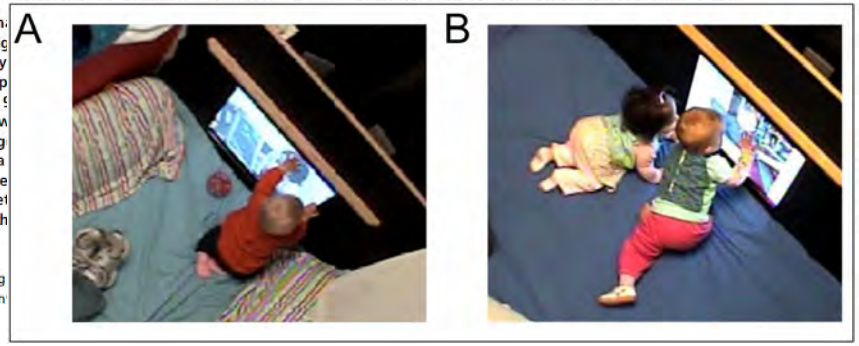
Sarah Roseberry Lytle[a,1], Adrian Garcia-Sierra[b], and Patricia K. Kuhl[a]

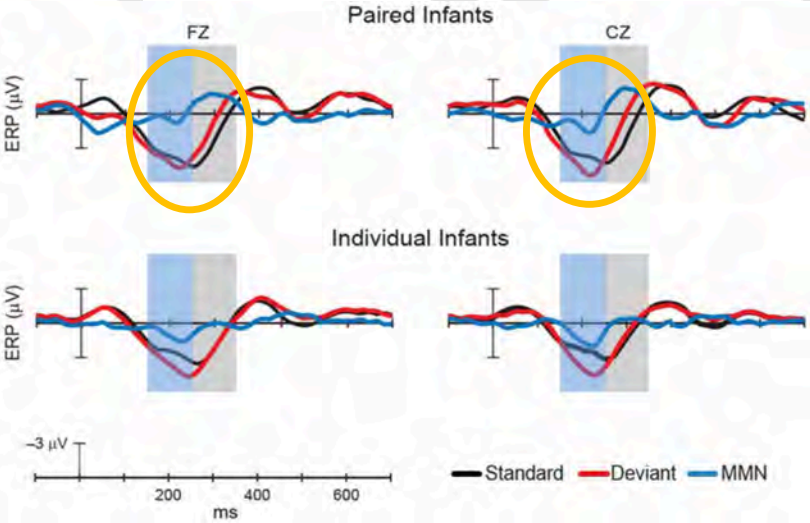
[a]Institute for Learning & Brain Sciences, University of Washington, Seattle, WA 98195; and [b]Speech, Language, and Hearing Sciences, University of Connecticut, Storrs, CT 06269

Edited by David E. Meyer, University of Michigan, Ann Arbor, MI, and approved November 29, 2017 (received for review May 11, 2017)

Studies show th
from humans sig
is not clear why
be done to imp
conducted with
screen video—w
foreign-languag
learning from a
peer, as oppose
learning and de
firm the hypoth
from screens.

language learning
social learning | in





「新しい生活様式」により加速する環境変化

生物としてのヒトの育ちの前提を忘れずに模索し続けたい

（１）ヒトを含む哺乳類動物は，他者（養育者）との**身体接触なしには生存できない**

（２）**乳幼児期の脳発達**には，他者と身体接触する経験が不可欠

（３）乳幼児期の環境経験は，**その後の脳と心の発達に直接的に影響**する

乳幼児保育とは

人類の未来（ヒトの脳と心）を左右する
きわめて重要な責務を担う営みである

ヒトの脳と心の発達に適応的な環境をどう提供できるか？

（１）感染リスクを最小限に抑えながらも
「できるだけ・できる範囲で」他者との身体接触を経験できる時空間を提供していく方法

（２）密にならずとも（限定した関係のもと）
それぞれの子どもにとって**「安心できる特定の他者」と必要なときにいつでも繋がることのできる機会**の提供

（３）保育関係者が，ためらいや不安，社会からの圧力につぶされることなく，**『子どもたちの脳と心の発達にとって必要なことを実践している』という確信・自信・誇り**を高めるバックアップ体制